



《 例会 》 毎月第 2 水曜日 19:00~21:00 若松栄町教会 (☎ 0242-27-3944)

**2016~2017 年度主題**

International President :Joan Wilson (カナダ)  
 "Our Future Begins Today" 「私たちの未来は、今日より始まる」  
 Asia Area President :Tung Ming Hsian (台湾)  
 "Respect Y's Movement" 「ワイズ運動を尊重しよう」  
 東日本区理事 利根川恵子 (川越) 「明日に向かって、今日動こう」  
 北東部部長 長岡正彦 (もりおか) 「明日のために、いま土台を築こう」  
 会津クラブ会長 青山孝男 「明日を楽しく、共に歩もう！」

<No.265 会津通信>  
 2017 年 5 月 13 日発行

会 長	青山孝男
副会長	高橋眞美
書 記	高橋真人
会 計	高橋真人

◇5 月の聖句 ◇

「わたしたちの心は燃えていたではないか」

ルカ福音書 24 : 32

**5 月例会プログラム**

司会 ; 高橋 真人 ㊦

1. 開 会 点 鐘 青山孝男会長
2. ワイズソング 一 同
3. 会長あいさつ 青山孝男会長
4. 連 絡・報 告 青山孝男会長
5. 聖句朗読 高橋 カ㊦
6. 食前感謝 高橋 カ㊦
7. 会 食
8. 懇 談 「ゲストスピーチ」
9. Happy Birthday! Happy Anniversary!

**あかべこ**

10. 閉 会 点 鐘 青山孝男会長

**「青少年教育にも関心を」**

高橋京子

日々国内のニュースは不吉な心のざわめくものが多くなってきました。「森友学園」の一連のニュース、幼児教育の現場で「教育勅語」が復活していることなど、背筋の凍る思いです。世界の行く手にも不吉な暗雲が広がっています。日本を戦争から守る九条を揺るがせ、戦争に向かう準備を着々と進める現政権の向かっている方向は許せません。



悲しいことに、国の向かう方向に無関心な人の多い中、近々日本を引っ張る力となる青少年に現政権の思惑が入っていけば平和を作り出す手足をもぎ取られたようなものです。そして教育の中で育まれているはずの「日本の将来は話し合っ選り取れる」という民主主義の大前提をないがしろにしてしまう「共謀罪」をあたりまえとすることができる日本人を育てられてしまう事も危惧します。

「道徳」の時間も「正規」となっている今、注意深く感心を向けなければならないと思います。

(6 月号は青山孝男会長です)

**<4 月例会出席状況>**

在 籍 者 5 名 ゲスト 0 名

出 席 者 5 名

\*出席率 100%

あ か べ こ 5,000 円

16-17 年度合計 39,000 円

☆ 強い義務感を持つよう 義務はすべての権利に伴う。 ☆

## 会津クラブ例会

### <ゲストスピーチ>

今月は「真珠の会」の皆さんの戦争体験を聞く会に参加しての例会となりました。お話していただく方は、会津中央乳業（株）代表取締役社長の二瓶孝也さんです。

「あの子」知ってる？ **小さな女の子の物語**がテーマです。

「べこの乳」は会津のみならず首都圏にもたくさんのファンをもととのことです。女の子には名前がありません。でもモデルがいるとのことです。

ここからは、会津中央乳業（株）さまのHPに掲載されていますので、割愛しながら紹介し次回はスピーチを載せますのでお読みください。

「あの子」の話

「べこの乳」はじめヨーグルト瓶、アイスカップ、トラックのボディ、社員の名刺にも、おさげ髪の女の子「あの子」が描かれています。

会津地方に住んでいる人なら誰でも知っている「あの子」。みんな知っているのに「あの子」の名前は、誰も知りません。いったいあの子は誰？実は、「あの子」には、モデルがいます。それは今から70年も前のこと。当時、弊社の創始者・二瓶四郎は、満州鉄道で働いていました。

家族は、妻の文子と2歳になったかわいい盛りの長女の孝子。しかし、幸せは長くは続きませんでした。

1945年（昭和20年）、第二次世界大戦終結で状況は一変。終戦と同時に、四郎はシベリアへ抑留されてしまいました。

身重の妻・文子は、引き揚げ船に乗るために、長女を連れて中国各地を逃げ回ります。

着の身着のまま無一文で引き揚げ船を目指した文子と孝子でしたが、食べ物も手に入らず、水も満足に飲めない日々が続きました。

文子の母乳も出なくなり、やせ細った孝子は栄養失調で他界。悲しみに暮れる間もなく文子は、同年12月ハルピンで長男孝也（現社長）を出産。

命からがら日本へ、そして故郷会津に帰ってきました。3年後、シベリアから生還した四郎は、会津三島町の実家に住む兄から毎日搾りたての牛乳を分けてもらい鍋で沸かして瓶に詰めて販売する仕事を始めました。

日本の経済復興と共に牛乳の消費量も少しずつ増え、四郎の仕事も順調に推移して行きました。修業に出た長男孝也が故郷に戻った43年に新製品として発売した製品に入れたのが「あの子」マークです。四郎は社名を「二瓶牛乳」から「坂下ミルクプラント」として法人化したのでした。

マークには「あの子のとき牛乳があったなら…」 「栄養があるものを食べさせることができていたら…」と、子を思う親の切ない思いが込められていました。



「どこの子も健康で幸せに育ててほしい」という願いを込め、牛乳を飲んだ時の「あの子供の笑顔」をマークとして、ずっと「あの子」を大切にしてきました（以下次号へ）

## 会津の先人たち（会津若松市HPより）

### 女性の自立を求めた文学者

若松 賤子わかまつ しずこ（1864～1896）

#### 『花嫁のベール』

「われはきみのものならず、私は私のもの、夫のものではない。あなたが成長することをやめたら、私はあなたを置き去りにして飛んで行く。私の白いベールの下にあるこの翼を見よ」

明治22年、賤子は夫となる巖本善治（いわもとぜんじ）に、結婚式でこの詩を送りました。封建的で女性の社会的地位が低い時代、賤子は女性の自立と男女平等を宣言しました。

#### 孤児から養女へ

賤子は、元治元年（1864）に会津藩士松川勝次郎の長女として、市内阿弥陀町（現在の宮町）に生まれ、甲子（かし）と名付けられました。4歳のとき戊辰（ぼしん）戦争を体験し、敗戦後、父親は斗南（となみ）へ移住し行方不明となり、残った母親を病気で失い孤児となりました。たまたま、商用で若松に来ていた織物貿易商の手代（てだい）大川甚兵衛の養女となり、賤子は横浜で育ちました。

#### 宣教師の教育

7歳で、日本最初の女性宣教師キダーが開く英語塾に入学しますが、養父の経済的事情で一時的に中断します。塾が寄宿制のフェリス・セナナリー（現フェリス女学院）として再開されると、賤子は復学して18歳で卒業しました。成績優秀な賤子は母校の和文教師となります（次号へ）

#### ◆ 今後の予定 ◆

◇ 6月例会 6月14日

◇ ユニークダンス6月例会

6月28日 午後6時～

場所：リニューアルされた  
日本料理「生粋」 ☎26-3300



